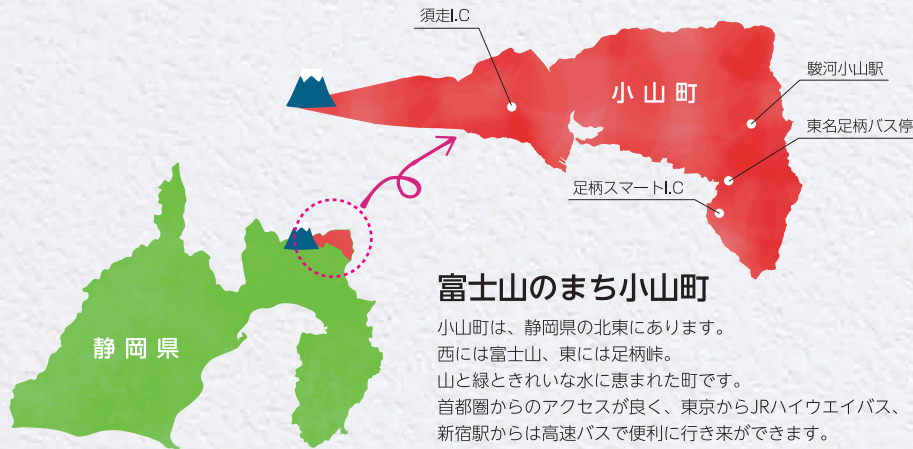




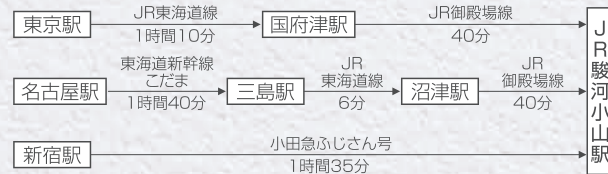
しずおか遺産
SHIZUOKA HERITAGE

富士山の清流が 織り成した産業革命

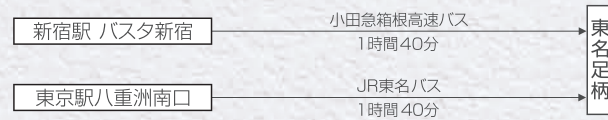
小山町編



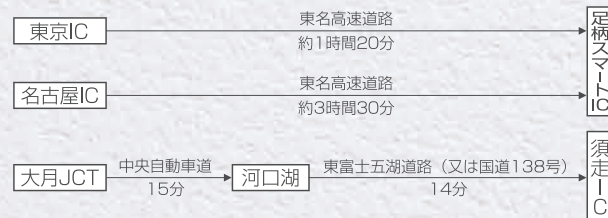
● 電車で



● 高速バスで



● 車で



豊門会館 (和館・洋館)

小山町藤曲142-7 ☎ 0550-70-7222
 営業 10:00~16:00
 休 火・水曜日、年末年始ほか
 [入館料] 300円

西洋館

小山町藤曲144-8
 営業 10:00~16:00
 休 火・水曜日、年末年始ほか
 [入館料] 無料

森村橋

小山町小山133-6地先

小山町教育委員会 生涯学習課

〒410-1321 静岡県駿東郡小山町阿多野130
 TEL 0550-76-5722 FAX 0550-76-5724

「日本遺産」の静岡県内版として、魅力ある歴史文化資源を発信するための県の認定制度です。

豊かな自然に恵まれ、時代の物語が繰り広げられた静岡県は、歴史文化資源の宝庫です。

令和6年度に小山町と富士宮市で申請した「富士山の清流が織り成した産業革命」のストーリーが「しずおか遺産」に認定されました。

ここでは、小山町の歴史文化資源について解説いたします。

信仰の対象と芸術の源泉として名高い富士山が生み出した近代産業の遺産を巡ることは、富士山の知られざる魅力を見つける旅となることでしょう。



富士の恵み

世界文化遺産の富士山。はるかな昔より噴火を繰り返したこの山を、人々は畏れ信仰の対象として敬ってきました。その堂々とした姿は様々な芸術を生み出し、麓のまち小山町では豊富な水をはじめとする富士山の恵みによって生活が営まれてきました。

戦国時代以降、特に江戸時代中期より各地から富士山の信仰登山をする人たちが訪れ、麓のまちは潤いました。時代が移り、明治時代。日本は急速に近代国家へ歩みを進めるようになり、鉄道が開通し工場が建てられるようになりました。



近代化の波

日本が産業の近代化を目指す中、富士山の豊富な水の力に目を付けた人たちが現れました。彼らは明治20年（1887）富士宮市内の潤井川沿いに水車動力の工場を建て、成功を収めました。そしてその次には、同じく豊富な水のある小山町（当時は六合村）に工場を作る計画を立てました。



明治31年（1898）、富士山と箱根山系の水が集まる鮎沢川沿いで、水車動力の巨大な紡績工場、『富士紡績会社小山工場』が操業を始めました。当時、最寄駅の「駿河小山駅（当時は小山駅）」は東海道線の一部（現在の御殿場線）だったので、東京や横浜と直結していたことも、ここ小山町が工場誘致に選ばれた理由の1つです。

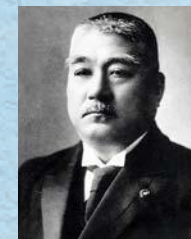
紡績業とまちの発展

富士紡績の経営は最初はうまくいかず、すぐに倒産寸前となりましたが、立て直しのために招かれたのが鐘淵紡績（旧カネボウ）の経営を立て直した和田豊治^{わだ とよじ}です。和田は、明治34年（1901）に入社すると、翌年には赤字を全額解消し、明治39年（1906）には生産量を当初の2倍に押し上げました。

農業が中心だった小山町の姿は大きく変わりました。人が増え、商店が建ち並び、病院、娯楽施設ができました。東京駅から東海道線に乗ると、横浜の次に出会う明るい町と言われるほど、夜も明るくなりました。大正末期から昭和初期の従業員数は10,000人以上にもなりました。



鮎沢川に架かる森村橋は、東海道線と工場を結ぶ荷物輸送用のトロッキのための鉄道トラス橋。まちの近代化を今も物語ります。



和田豊治

水車動力から水力発電へ

生産量が増していった明治時代の後半、日本各地で工場の電化が進み、電力が不足したため、新たな発電所が必要になりました。火力発電ではコストが掛かり過ぎるので、水力発電が選ばれました。富士紡績は、独自に水車動力から水力発電への転換に乗り出し、明治40年（1907）の鮎沢川での発電所稼働を皮切りに、大正時代の終わりまでに7か所の水力発電所を建設しました。



生土発電所

紡がれる歴史

大正13年（1924）に亡くなった和田豊治は、「東京向島の邸宅を小山の地に寄贈し、従業員や町民の福利厚生施設として利用してほしい。」と遺言を残しました。工場群を見下ろす「豊門公園」になっている場所に移設された和田豊治邸は、「豊門会館」と名付けられ、当時は富士紡績に関わる政財界人をもてなす迎賓館的な利用をされました。昭和5年（1930）には敷地内に西洋館も建てられ、富士紡績の若手幹部職員の研修や寮として利用されました。

平成になり、富士紡績の工場は小山町から姿を消しましたが、その遺産は今も町の中に生きています。住民と従業員のために造られた豊門公園は、令和元年に再整備さ



れ、西洋館の1階はカフェレストラン、2階は小山町の紡績の歴史を学ぶ展示がされています。時を超えて和田豊治邸は、その遺志のとおり町民のためのものとなりました。

水の恵みこれからも



富士山の水は、わさびも育てます。ゆっくり2年掛け、スコリアという富士山の火山灰を利用したこの地域独自の栽培方法で、高い品質のわさびを出荷しています。

小山町には、安全で豊富な水を利用したたくさんの食品系工場が建ち並び、町の経済や雇用を支えています。また、小山町では70年程前から須川で養鱈が行われていますが、近年アトランティックサーモンの陸上養殖施設ができ、海のない町から鮭を出荷する新たな産業も生まれています。富士山の豊富な水は昔と変わらず様々な姿を変えながら湧き続けているのです。



豊かな水の恵みは、町の特産品「水かけ菜」や「わさび」の生産に活かされています。水かけ菜は、稲刈りが終わった田んぼに水を掛け流して冬の間に育てるアブラナ科の菜っぱです。明治19年に小山町北郷村の村長が越後から種を持って来たことから栽培が始まったと伝わっています。漬物が生まれたのは明治20年代。東海道線（今の御殿場線）の工事のために各地から小山町に来ていた人たちの中にいた越後の女性が漬物を作り、その美味しさが広まったそうです。



国登録有形文化財は
平成 17 年 11 月 10 日登録



豊門会館

藤曲144-8

富士紡績から町へ譲渡され、国の登録有形文化財となった豊門会館。その敷地は公園として整備され、今では誰もが気軽にその歴史と緑を楽しむ場所となっています。「豊門」の名の由来は、和田豊治の「豊」、「門」は和田豊治と共に会社に貢献し「富士紡の三門」と呼ばれた3人の偉人「森村市左衛門」「日比谷平左衛門」「濱口吉右衛門」の「門」の字からです。当時この庭に植えられた木々は町の人たちが持ち寄ったものです。



国登録
有形
文化財

豊門会館 [和館]

富士紡績創業期の専務取締役、初代社長であった和田豊治の旧宅です。建物内では、渋沢栄一、勝海舟、徳富蘇峰、佐久間象山等の書も見学できます。



国登録
有形
文化財

豊門会館 [洋館]

平屋建て、スレート葺、寄棟造。和館の東側に、サンルームも付けられています。豪華な漆喰の天井、寄木細工の床などもご覧ください。



国登録
有形
文化財

豊門公園 西洋館

従業員や地域住民の教育のために、昭和5年(1930)に建設されました。1階はカフェ、2階は紡績の歴史が学べる資料館となっています。



国登録
有形
文化財

豊門公園 正門

大正14年建設、鉄筋コンクリート、モルタル洗い出し仕上げの門柱で石積み風に目地を入れ、重厚さを持ちながらも公園内へやさしく迎え入れてくれます。



国登録
有形
文化財

豊門公園 噴水泉

昭和初期建設、鉄筋コンクリート、モルタル洗い出し仕上げで石積み風に目地が入っています。西洋館の正面にあり庭全体を引き締めています。



国登録
有形
文化財

豊門公園 和田遺恵碑

大正14年建設、高さ3mの花崗岩製、「東洋のロダン」と呼ばれる彫刻家朝倉文夫のデザイン。町の人たちからの感謝を込めた寄附で建てられました。



国登録
有形
文化財

森村橋



明治39年建設、鋼製プラットトラス方式、秋元繁松の設計、東京石川島造船所が制作。「富士紡の三門」の1人森村市左衛門の功績を伝えようとこの名が付けられました。市左衛門はTOTOや日本ガイシなどの森村グループの創業者です。橋のたもとでは夏祭りやクリスマスのイベントが行われます。御殿場線の手窓からもライトアップがご覧いただけます。



しずおか
遺産

鮎沢橋

工場と社員寮を結ぶために明治40年(1907)に架けられました。工場の敷地内なので橋には近付けません。